

令和5年度 事業報告書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

学校法人 山村学園

1. 法人の概要

2. 財務の概要

3. 山村学園短期大学

1. 法人の概要

(1) 基本情報

学校法人 山村学園（法人本部）
埼玉県川越市田町 16 番地 2

(2) 建学の精神（校訓）、教育目標

「質実」素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。
「英知」高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。
「愛敬」人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。
(教育目標)
「地域社会に貢献できる、心豊かで有為な人材の育成」

(3) 学校法人の沿革

昭和26年3月1日	学校法人山村学園として設置認可
昭和26年4月1日	入間郡坂戸町に山村女子高等学校を開校 家庭科を設置
昭和33年4月1日	山村女子高等学校に商業科を設置
昭和34年7月1日	川越市にあらたに山村女子高等学校設置認可
昭和34年11月3日	坂戸町の既設の山村女子高等学校を山村第二女子高等学校と校名改称、同校商業科は川越市の山村女子高等学校に移設
昭和35年4月1日	山村女子高等学校開校
昭和43年4月1日	山村女子高等学校に普通科を設置
昭和44年4月1日	山村第二女子高等学校家庭科を服飾デザイン科に改称
昭和52年1月5日	山村第二女子高等学校に普通科設置認可
昭和52年4月1日	山村第二女子高等学校に普通科を設置
昭和63年12月22日	山村女子短期大学設置認可
平成元年4月1日	山村女子短期大学開学(国際文化科)
平成3年4月1日	山村第二女子高等学校を山村国際女子高等学校に校名改称
平成11年4月1日	山村国際女子高等学校を山村国際高等学校に校名改称(男女共学化)
平成13年8月1日	山村女子短期大学(国際文化科)の改組転換によりコミュニケーション学科設置
平成13年12月20日	山村女子短期大学に保育学科設置認可
平成13年3月31日	山村国際高等学校服飾デザイン科を廃止
平成14年4月1日	山村女子短期大学を山村学園短期大学に校名改称、並びに保育学科新設(男女共学化)
平成17年3月31日	山村女子高等学校商業科を廃止
平成17年3月31日	山村学園短期大学国際文化科を廃止
平成20年4月1日	山村女子高等学校を山村学園高等学校に校名改称(男女共学化)
平成24年4月1日	山村学園短期大学コミュニケーション学科をキャリア コミュニケーション学科に名称変更
平成27年3月31日	山村学園短期大学キャリア コミュニケーション学科を廃止
平成31年4月1日	山村学園短期大学保育学科を子ども学科に名称変更

(4) 設置する学校・学部・学科等・所在地

山村学園短期大学	子ども学科	埼玉県比企郡鳩山町石坂 604
山村学園高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県川越市田町 16-2
山村国際高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県坂戸市千代田 1-2-23

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和6年5月1日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
山村学園短期大学	子ども学科	100	58	200	107
山村学園高等学校	普通科	440	465	1,280	1,479
山村国際高等学校	普通科	280	270	800	894

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
山村学園短期大学	0.71	0.69	0.67	0.59	0.54
山村学園高等学校	1.11	0.98	1.05	1.15	1.16
山村国際高等学校	1.30	1.13	1.12	1.15	1.12

(7) 役員の概要

(令和6年5月1日現在)

<理事定数：7人 現員：7人、監事定数2人 現員2人>

役員	職名	氏名	常勤・非常勤の別	選任区分	選任条項	任期	現職等
	理事	おか 岡 実	非常勤	理事長	第5条第2項	H20.4.1 ~ 2008.4.1 ~	
				理事会選任	第6条第1項第3号	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	
	〃	の ぐち かず お 野 口 一 夫	常 勤	学長	第6条第1項第1号	H24.4.1 ~ 2012.4.1 ~	山村学園短期大学 学長
	〃	ひら の まさ み 平 野 正 美	常 勤	校長	第6条第1項第1号	H30.4.1 ~ 2018.4.1 ~	山村学園高等学校 校長
	〃	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	常 勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	R6.1.10 ~ R11.1.9 2024.1.10 ~ 2029.1.9	山村国際高等学校 校長
	〃	やま むら しげる 山 村 滋	非常勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	R6.1.10 ~ R11.1.9 2024.1.10 ~ 2029.1.9	※学外者
	〃	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	R3.4.1 ~ R8.3.31 2021.4.1 ~ 2026.3.31	※学外者
	〃	ふじ の せい た 藤 野 清 太	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	R6.1.10 ~ R11.1.9 2024.1.10 ~ 2029.1.9	※学外者
	監事	い とう つかさ 伊 藤 司	非常勤	理事長選任	第7条第1項	R6.1.10 ~ R11.1.9 2024.1.10 ~ 2029.1.9	司法書士
	〃	こはやし まつたろう 小林 松太郎	非常勤	理事長選任	第7条第1項	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	

①非業務執行理事等との責任限定契約の状況

寄附行為第46条（責任限定契約）に基づき、非業務執行理事（山村 滋氏、山口一郎氏及び藤野清太氏の各氏）及び監事（伊藤 司氏及び小林松太郎氏の両氏）との責任限定契約を締結しております。

②役員等を被保険者として加入している役員賠償責任保険契約の状況

理事会の決議に基づき、役員賠償責任保険に加入しております。

ア) 保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

イ) 被保険者(無記名式) 学校法人山村学園の理事7名、監事2名、評議員（理事兼務を除く）9名

ウ) 保険の名称 学校法人向け役員賠償責任保険

エ) 支払事由及び支払限度額

・支払事由

被保険者である理事、監事、評議員がその地位に基づき行った行為（不作為を含む）に起因して損害賠償がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や訴訟費用等。

・支払限度額

3億円

(8) 評議員の概要

(令和6年5月1日現在)

<評議員定数：15人 現員15人>

評 議 員	氏 名	選任区分	選任条項	任 期	現 職 等
	の ぐち かず お 野 口 一 夫	学長	第22条第1項第1号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	山村学園短期大学 学長
	ひら の まさ み 平 野 正 美	校長	第22条第1項第1号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	山村学園高等学校 校長
	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	法人の職員	第22条第1項第2号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	山村国際高等学校 校長
	やま むら まさ こ 山 村 昌 子	法人の職員	第22条第1項第2号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	山村学園短期大学 事務局次長
	やま ざき り え 山 崎 利 恵	法人の職員	第22条第1項第2号	R6. 4. 1 ~ R11. 1. 9 2024. 4. 1 ~ 2029. 1. 9	山村学園高等学校 教頭
	く どう じゅん 工 藤 潤	法人の職員	第22条第1項第2号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	山村国際高等学校 教頭
	おか みのゝ 岡 実	理事の互選	第22条第1項第3号	R2. 6. 16 ~ R7. 6. 15 2020. 6. 16 ~ 2025. 6. 15	
	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	理事の互選	第22条第1項第3号	R3. 4. 1 ~ R8. 3. 31 2021. 4. 1 ~ 2026. 3. 31	
	さか た まさ え 坂 田 正 枝	卒業生	第22条第1項第4号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	
	の じま やす こ 野 島 康 子	卒業生	第22条第1項第4号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	
	いし やま よし こ 石 山 佳 子	卒業生	第22条第1項第4号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	
	はぎ わら もと お 萩 原 基 雄	卒業生	第22条第1項第4号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	あたご保育園 園長
	やま むら しげる 山 村 滋	学識経験者	第22条第1項第5号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	
	くろ さわ かず ゆき 黒 澤 一 幸	学識経験者	第22条第1項第5号	R6. 1. 10 ~ R11. 1. 9 2024. 1. 10 ~ 2029. 1. 9	
	た なか ひさ こ 田 中 久 子	学識経験者	第22条第1項第5号	R6. 4. 1 ~ R11. 3. 31 2024. 4. 1 ~ 2029. 3. 31	

(9) 教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数

(令和6年5月1日現在)

区 分	教 員		職 員		合 計
	本務	兼務	本務	兼務	
法人本部	0	0	5	0	5
山村学園短期大学	11	17	5	7	40
山村学園高等学校	85	41	10	4	140
山村国際高等学校	56	29	6	4	95
計	152	87	26	15	280

2. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	6,471,117	6,515,415	6,503,668	6,482,016	6,546,206
有形固定資産	5,697,175	5,614,369	5,471,279	5,388,046	5,480,253
特定資産	631,821	761,821	896,821	961,821	936,821
その他の固定資産	142,121	139,225	135,568	132,149	129,132
流動資産	895,342	836,578	867,245	807,846	787,233
資産の部 合計	7,366,459	7,351,994	7,370,914	7,289,862	7,333,439
固定負債	1,134,341	1,017,396	923,464	833,332	902,375
流動負債	540,050	500,076	613,640	517,829	538,928
負債の部 合計	1,674,391	1,517,472	1,537,104	1,351,160	1,441,303
基本金	9,405,640	9,637,810	9,714,965	9,654,166	9,838,425
繰越収支差額	△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464	△ 3,946,288
純資産の部 合計	5,692,068	5,834,522	5,833,810	5,938,702	5,892,136
負債及び純資産の部 合計	7,366,459	7,351,994	7,370,914	7,289,862	7,333,439

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収 入 の 部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	1,346,698	1,235,945	1,128,647	1,211,571	1,293,339
手数料収入	59,491	62,413	82,424	77,721	66,578
寄付金収入	42,360	23,655	23,373	69,188	48,686
補助金収入	889,709	946,544	951,921	1,020,943	1,001,500
資産売却収入	0	0	0	0	11,900
付随事業・収益事業収入	35,251	36,044	32,161	30,336	41,613
受取利息・配当金収入	5	1	1	1	1
雑収入	142,421	82,615	127,605	62,045	122,240
借入金等収入	60,000	0	30,000	48,000	200,000
前受金収入	215,515	232,439	290,647	263,147	220,551
その他の収入	1,024,153	980,930	885,774	913,133	1,024,339
資金収入調整勘定	△ 401,538	△ 306,966	△ 365,437	△ 373,726	△ 382,076
前年度繰越支払資金	799,852	771,660	744,827	734,126	723,254
収入の部合計	4,213,917	4,065,279	3,931,943	4,056,484	4,371,925

(単位：千円)

支 出 の 部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	1,630,322	1,537,324	1,578,532	1,501,399	1,635,362
教育研究経費支出	412,951	332,520	390,809	448,239	483,757
管理経費支出	150,391	142,576	138,864	177,146	189,007
借入金等利息支出	7,996	7,056	6,386	5,940	5,600
借入金等返済支出	134,434	113,948	116,348	124,148	134,452
施設関係支出	273,217	40,030	62,656	62,894	383,484
設備関係支出	47,435	103,157	24,440	89,326	26,274
資産運用支出	65,000	140,000	135,000	65,000	55,000
その他の支出	867,006	971,683	883,468	913,609	917,491
資金支出調整勘定	△ 146,496	△ 67,843	△ 138,686	△ 54,472	△ 126,645
翌年度繰越支払資金	771,660	744,827	734,126	723,254	668,141
支出の部合計	4,213,917	4,065,279	3,931,943	4,056,484	4,371,925

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入 計	2,480,220	2,339,381	2,312,806	2,391,498	2,534,569
教育活動資金支出 計	2,193,662	2,012,374	2,108,200	2,126,352	2,307,790
差 引	286,558	327,007	204,606	265,147	226,779
調整勘定等	△ 63,025	3,807	76,282	△ 39,789	△ 42,120
教育活動資金収支差額	223,533	330,814	280,888	225,357	184,660
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入 計	185,710	57,832	33,326	80,305	101,287
施設整備等活動資金支出 計	385,652	253,187	192,096	187,220	434,759
差 引	△ 199,942	△ 195,354	△ 158,770	△ 106,915	△ 333,472
調整勘定等	4,856	△ 33,799	11,565	△ 23,219	35,805
施設整備等活動資金収支差額	△ 195,086	△ 229,153	△ 147,205	△ 130,134	△ 297,666
小計（教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額）	28,447	101,661	133,683	95,224	△ 113,007
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入 計	798,522	847,715	824,323	829,628	1,091,261
その他の活動資金支出 計	855,161	976,208	968,707	935,724	1,033,367
差 引	△ 56,639	△ 128,493	△ 144,384	△ 106,096	57,894
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 56,639	△ 128,493	△ 144,384	△ 106,096	57,894
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)	△ 28,192	△ 26,833	△ 10,701	△ 10,872	△ 55,113
前年度繰越支払資金	799,852	771,660	744,827	734,126	723,254
翌年度繰越支払資金	771,660	744,827	734,126	723,254	668,141

③事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,346,698	1,235,945	1,128,647	1,211,571	1,293,339
	手数料	59,491	62,413	82,424	77,721	66,578
	寄付金	9,925	10,560	10,280	34,873	23,431
	経常費等補助金	886,534	912,745	931,689	974,953	987,368
	付随事業収入	35,251	36,044	32,161	30,336	41,613
	雑収入	142,421	82,612	127,605	62,045	124,743
	教育活動収入 計	2,480,320	2,340,319	2,312,806	2,391,498	2,537,072
	事業活動支出の部					
	人件費	1,628,448	1,533,727	1,576,948	1,497,015	1,634,498
	教育研究経費	588,091	513,180	577,114	639,779	678,534
	管理経費	197,931	191,691	186,391	222,591	237,839
	徴収不能額等	0	0	0	0	1,493
	教育活動支出 計	2,414,470	2,238,598	2,340,454	2,359,385	2,552,364
	教育活動収支差額	65,850	101,721	△ 27,648	32,114	△ 15,292
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	5	1	1	1	1
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入 計	5	1	1	1	1
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	7,996	7,056	6,386	5,940	5,600
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計	7,996	7,056	6,386	5,940	5,600
	教育活動外収支差額	△ 7,991	△ 7,055	△ 6,385	△ 5,939	△ 5,600
経常収支差額		57,859	94,666	△ 34,033	26,175	△ 20,892
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	35,721	47,835	33,326	80,525	39,387
	特別収入 計	35,721	47,835	33,326	80,525	39,387
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	0	0	0	1,375	64,723
	その他の特別支出	2	47	5	433	337
	特別支出 計	2	47	5	1,808	65,060
	特別収支差額	35,719	47,788	33,321	78,717	△ 25,673
基本金組入前当年度収支差額		93,578	142,454	△ 712	104,892	△ 46,565
基本金組入額合計		△ 373,481	△ 232,170	△ 99,843	△ 119,024	△ 275,595
当年度収支差額		△ 279,904	△ 89,716	△ 100,555	△ 14,132	△ 322,160
前年度繰越収支差額		△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464
基本金取崩額		1,573	0	22,689	179,822	91,336
翌年度繰越収支差額		△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155	△ 3,715,464	△ 3,946,288
(参考)						
事業活動収入 計		2,516,046	2,388,155	2,346,133	2,472,025	2,576,459
事業活動支出 計		2,422,469	2,245,701	2,346,845	2,367,133	2,623,025

3. 山村学園短期大学

I 現状

- 1 概要
- 2 建学の精神、教育目標、三つのポリシー
- 3 18 歳人口
- 4 学生募集
- 5 学習支援
- 6 求人・就職
- 7 本学への評価
- 8 財務状況
- 9 行政の施策
- 10 令和5年度（2023年度）事業報告一覧表

I. 現状

1. 概要

令和6年度入試において入学予定者が58名（うち、職業訓練生9名）前年度比＋5名となった。しかしながら、目標としていた80名に届かず、財務状況は相当厳しい状況である。

教育面では、満足度調査、授業評価、就職先からの評価などは、一定レベル以上であり、引き続き充実が図られているが、授業アンケート及び卒業時に実施する満足度調査においては、冷暖房設定温度、Wi-Fi設備充実に関する指摘が複数見られた。

令和5年度においても、私立大学等改革総合支援事業補助金制度、高等教育無償化、幼児教育の無償化への対応に重点的に取り組んだが、私立大学等改革総合支援事業補助金では、タイプ3の採択を逃し、補助金を獲得することができなかった。

学習成果や三つのポリシーの見直しについては、例年通り点検を行い、科目名等の微修正を行った。

就職に関しては、保育者のニーズが高く、依然高い就職率を維持している。この傾向は、今後数年間は続くものと思われる。

2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー

(1)建学の精神、教育目標

山村学園短期大学 教育方針
○校訓（建学の精神の流れをくむシンボリックなもの） 「質実」 素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。 「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。 「愛敬」 人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。
○寄附行為 「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、社会の発展に有為な人材を育成することを目的とする。」
○短大学則第1条第2項 「本学は、学校教育法に基づき、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かな人材を育成し、もって広く社会の発展に寄与することを目的とする。」
○短大学則第1条第3項 「保育学科においては、高い保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備え、地域社会に貢献できる骨太な幼稚園教諭・保育士の養成と、その基礎となる教育研究の推進を目的とする。」

(2) 山村学園短期大学子ども学科 3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

子ども学科では、建学の精神（質実・英知・愛敬）、学則にある短期大学及び子ども学科の目的に則り、学則第43条（卒業）に示す所定の教育課程を修め、66単位以上を累積 GPA 一定以上の成績で修得し、以下のような知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を備えた者に対し、その卒業を認定し短期大学士の学位を授与します。

（知識・技能）

- ・ 保育者としての専門的知識・技能
- ・ 社会人として必要な教養・知識

（思考力・判断力・表現力）

- ・ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、職業や社会における諸問題を自ら発見、分析、解決方法について
- 考察する力、さらに自分の考えを他者に口頭、文章、あるいは身体をもつて的確に表現する力

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ・ 保育への情熱と使命感を持って社会に貢献しようとする積極的な態度
- ・ 人や自然を深く愛し、慈しむ態度
- ・ 社会人として必要なマナー・常識・態度

②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

子ども学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に示した資質・能力・態度を総合的に備えた学生を育成するために、以下のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいて教育課程を編成するとともに、学生の学修学習過程や学修方法が明示された教育内容、教育方法をもって授業を実施し教育評価を行います。

（教育内容）

- ・ 保育者としての専門的知識・技能をはじめとして、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を育むため、教養科目及び専門科目を科目内容の分野や関連性から記号・番号をつけ、体系的、系統的にふまえて配置し、学生が学びの全体像や科目間の関連を容易に理解できるようにカリキュラムツリーを作成します。
- ・ 保育者としての使命感や態度、社会貢献への積極的な姿勢、人や自然を深く愛し、慈しむ態度等を涵養するため、学内外の自然・社会環境を利用した体験型の学習を取り入れた科目を配置します。
- ・ 1年次には、建学の精神を理解し、大学における学びへの適応を速やかにするとともに、社会性や学ぶ力の基礎を育むため「子ども学演習Ⅰ・Ⅱ」・「キャリアアップ・セミナー」

ーⅠ・Ⅱ」を、2年次には主体性、協働性、対話性、人間力を高めるため「子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱ」「キャリアアップ・セミナーⅢ・Ⅳ」をそれぞれ配置します。

・保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に関する科目による幼稚園教諭・保育士養成課程を編成するとともに、その他保育者として資質向上に資する資格が取得できる科目を配置します。

(教育方法)

・シラバスには、各授業科目の到達目標や毎回の授業の予習・復習内容などを具体的に示すことで、学生の主体的で効果的な学習を支援します。

・授業科目の内容に応じて、アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、ゼミナール形態等を取り入れ、学生自身の問題発見、資料収集と分析、解決方法の検討、討議・発表の機会を多く提供することに努めます。

・保育の内容や保育技術、実習準備に関する科目については、少人数編成で効果的に学習できる授業展開とします。

・免許・資格取得のための現場実習や現場体験の学習を段階的に行い、これらを通じて保育者としての資質・能力・態度の修得に資するようにします。

(評価)

・単位認定にあたっては、シラバスに開示する成績評価と基準によって厳格な成績評価を行うとともに、半期ごとに GPA によって学修成果の達成状況を評価し、一定の GPA をクリアするよう学修支援・指導を行います。また、学生は学年ごとに自身の学習ポートフォリオを作成し、自らの学びの成果を自己点検・自己評価することができます。

・授業アンケートを半期ごとに実施し、個々の授業内容や方法の改善やカリキュラム編成の改善を検討します。

③アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

子ども学科では、建学の精神（「質実」、「英知」、「愛敬」）を理解するとともに、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かで広く社会の発展に寄与できる人材の育成方針に共感する、次のような者の入学を期待しています。

(知識・技能)

- ・幼児教育・保育の学習に必要な十分な基礎学力を備えている。
- ・音楽、造形、言語・身体などの表現技術などに親しんでいる、あるいはこれらを今後学ぶにふさわしい豊かな感性をもっている。
- ・社会人として必要な教養・知識を身につけようとする姿勢をもっている。

(思考力・判断力・表現力)

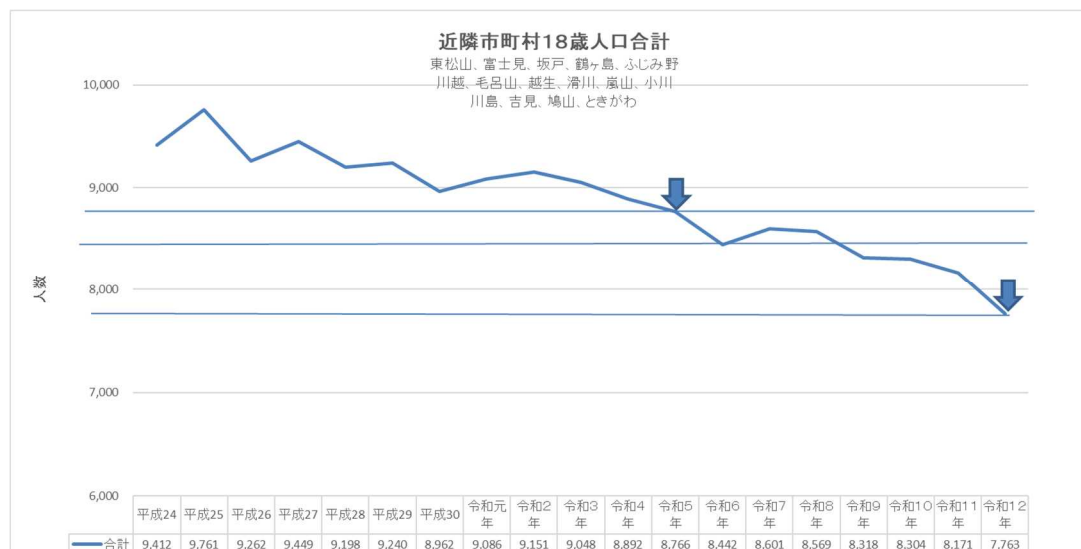
・学びの基礎となる「読む、書く、聞く、話す」能力や自ら課題を発見し、考え、判断し、行動できる力を高めようとする姿勢をもっている。

(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

- ・幼児教育・保育に情熱と使命感をもって取り組むことができる。

- ・人や動植物、自然に対する深い愛情を持っている。
- ・笑顔、挨拶、言葉づかいなど基本的な対人関係能力を備えている。

3. 18 歳人口



令和5年と令和6年を比較すると3.6%の減少。令和5年度と令和12年度では、11.4%の減少となる。ただし、この図は人口流入の予測値は反映されておらず、単純に年齢別の人口を拾った数値である。平成30年度から令和4年度の近隣市町村の18歳人口は、8,800人以上と減少幅が一時的に少なかったが、令和6年からは18歳人口がさらに減少する傾向が続く。

4. 学生募集

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入学者数	70	74	65	70	53	58

上の表は、令和元年度からの保育学科合格者数を示したものである。令和6年度の入学者数は前年度よりも持ち直したが、少ない数字である。

高校名	令元	令2	令3	令4	令5	令6	目標値 過去9年 平均
山村国際高校	6	10	8	7	3	2	7.0
川越西高校	6	5	6	5	4	1	4.5
小川高校	5	5	5	1	3	3	4.3
県立越生	5	1	2	1	1	1	1.4
松山女子高校	3	3	1	2	1	2	2.1
武蔵越生	3	1	0	6	1	1	2.1
寄居城北	3	4	2	1	0	2	2.4
新座柳瀬	3	0	0	0	0	0	0.8
鴻巣女子高校	3	2	0	3	1	1	1.9
筑波大学付属坂戸高校	2	1	1	0	0	0	0.7
埼玉平成高校	2	1	0	1	2	0	1.0
川越初雁高校	2	1	0	0	0	0	0.5
狭山清陵高校	2	1	2	0	0	0	0.6
滑川総合高校	1	3	6	8	6	6	5.2
秋草学園高校	1	0	1	0	1	0	1.1
鳩山高校	1	2	1	2	0	0	1.5
富士見高校	1	1	0	2	0	0	0.8
飯能南	1	1	1	0	0	0	0.4
飯能高校	1	1	1	0	0	0	0.7
朝霞西	1	0	0	1	0	0	0.3
東京成徳大学深谷高校	0	2	1	0	1	0	1.5
鶴ヶ島清風高校	0	1	5	6	1	2	2.6
川越総合高校	0	2	1	0	3	3	1.7
山村学園高校	0	3	0	3	1	3	1.9
坂戸西高校	0	2	0	5	1	1	2.6
志木高校	0	1	0	1	0	1	1.1
豊岡	0	0	0	0	0	0	0.3
ふじみ野	0	0	0	1	1	1	0.5
市立川越	0	0	0	0	0	2	0.4
伊奈総合学園高校	0	0	0	0	0	0	0.2
誠和福祉高校	0	0	0	0	0	0	0.1
日高高校	0	0	0	1	0	3	0.7
本庄第一	0	0	1	0	0	0	0.5
正智深谷高校	0	0	1	0	0	0	0.2
大宮武蔵野高校	0	0	0	0	0	0	0.1
朝霞高校	0	1	0	1	0	0	0.2
西武台	0	0	0	0	0	0	0.0
深谷商業高校	0	0	0	0	0	0	0.0
狭山経済	0	0	0	0	0	0	0.1
秩父農工科学	0	0	1	1	0	2	0.8
川越南	0	0	1	0	0	1	0.3
合計	52	55	48	59	31	38	55

左の表は、主な高校別入学者数である。本学の特徴として、ひとつの高校から複数名が入学する傾向があるが、令和6年度入試では、5名を超える高校は、滑川総合高校のみとなった。

左記以外に飛鳥未来高校1名、鹿島朝日高校1名、清和学園高校1名など通信制の高校からの入学者が増えた。

また、東京の白梅学園高校から2名の入学者がいる。

資料請求数・オープンキャンパス参加者数・入学者数

	R1	R1 割合	R2	R2 割合	R3	R3 割合	R4	R4 割合	R5	R5 割合
資料請求数	968	100%	918	100%	714	100%	681	100%	610	100%
参加者人数（延べ数）	278	29%	237	26%	307	43%	189	28%	186	30%
参加者人数（1、2、3年生以上の実質数）	182	19%	144	16%	169	24%	127	19%	118	19%
参加者人数（3年生以上のみの実質数）	98	10%	105	11%	103	14%	83	12%	74	12%
次年度志願者数	57	6%	57	6%	70	10%	53	8%	59	10%
次年度志願者数/参加者人数（3年生以上のみの実質数）										
	58%		54%		68%		64%		80%	

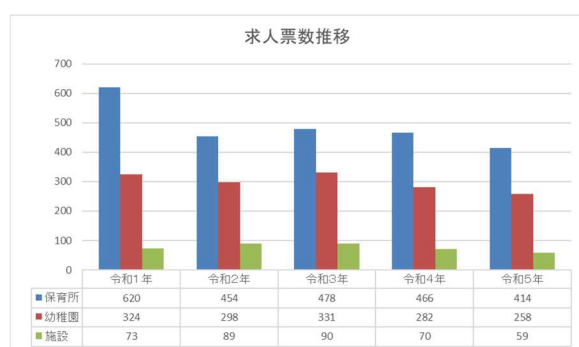
上の表は、オープンキャンパス（年に19回程度）の参加状況と次年度志願者数をまとめたものである。昨年度は、オープンキャンパスに参加した3年生以上の受験生のうち64%が実際に志願していたが、令和5年度については80%（昨年度比16%増）と高い数字となった。高校生の入試への負担を減らしたことも一つの要因であると考えられる。一方、参加者数自体が減少傾向にあることから、入学者数全体の伸びにはつながらなかった。

5. 学習支援

	令和2年度生 73名入学 →68名	令和3年度生 65名入学 →61名	令和4年度生 70名入学 →66名	令和5年度生 52名入学 →49名
1年時退学者	1	3	4	3
2年時退学者	4	1	0	-
退学者数合計	5	4	4	3

左の表は、退学者数を表したものである。令和5年度は、入学者52名のうち、3名の退学者が予想される。メンタル上の問題、学業不振などが原因と考えられる。

6. 求人・就職



左の表は、求人票数の推移をまとめたものである。令和5年度の求人票数を見ると、若干減少傾向ではあるが、依然として現場からのニーズは高い。求人票数が減った一因としては、キャリアス UC へ求人を出す園が増えたことが挙げられ、実質的には人手不足が続いていると考えられる。

なお、求人票数とは、求人票の数であり、求人数ではない。実際の求人数は求人票数の数倍になると思われる。

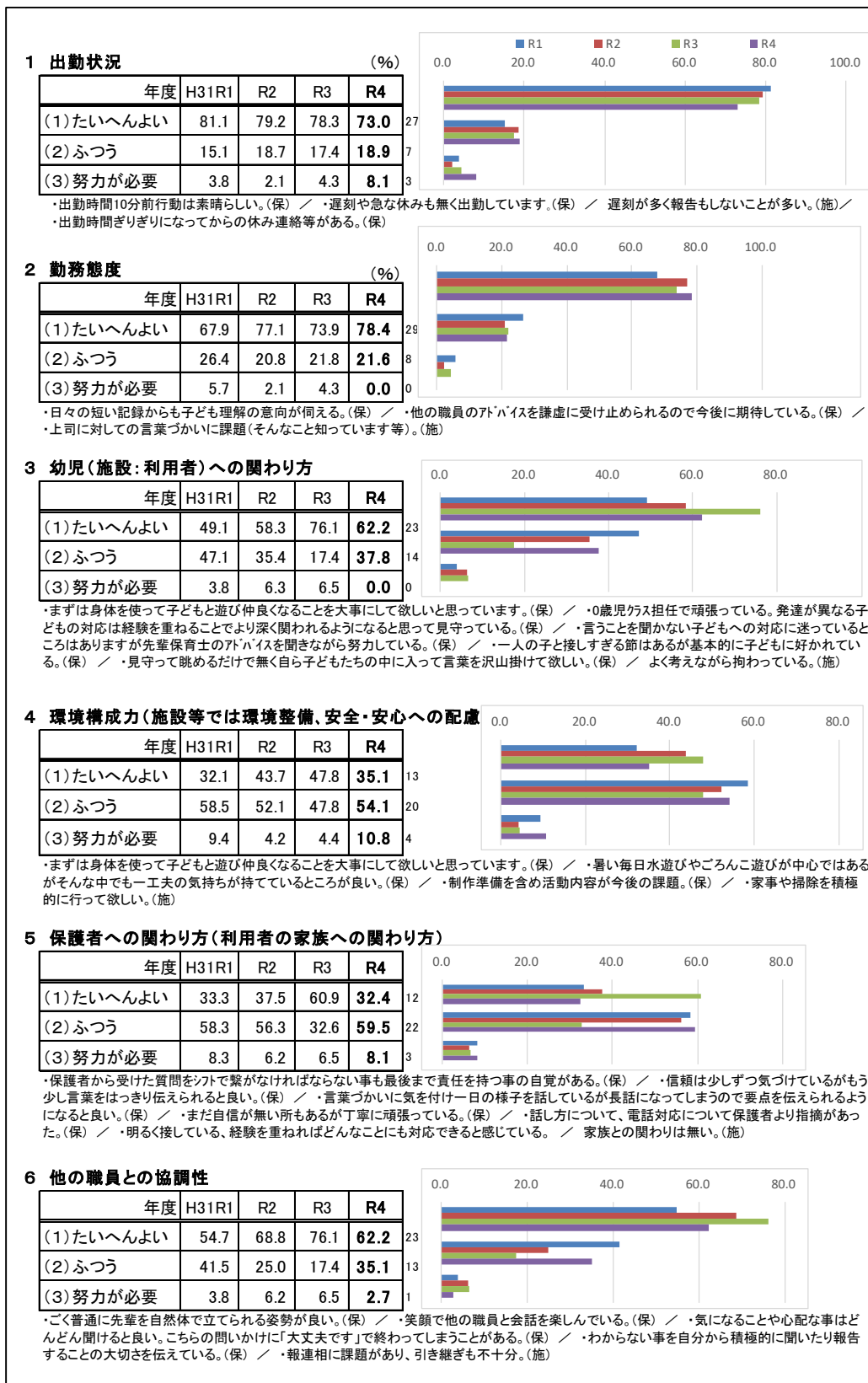
また、キャリアス UC キャリア支援サイトによる、本学宛求人票数は、令和6年3月卒業生向けが、7974（前年は6415）届いている。内容は企業からの求人が多いが、幼稚園、保育園、施設、公務員等も年々増え、内容も多岐に亘っている。

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
現役合格	2	4	4	1	2	0	6	5
過年度卒	0	1	3	1	0	2	0	2
合計	2	5	7	2	2	2	6	7

上の表は、公務員試験の合格者数である。令和5年度は7名の合格者があった。(前年度比+1名)

7. 本学への評価

(1) 就職先からの評価 令和5年3月卒業者に対する評価



7 その他(本学への要望等)

- ① 常に前向きで次年度も働きたいとのことで大変嬉しく思っている。(幼)
- ② 明るく常に笑顔で子どもたちに接してくれている。(認こ)
- ③ 素晴らしい勤務態度と人格で園としても助かっている。(保)
- ④ 大変なことも多い新人の時期ですが日々頑張ってくれている一つ一つ覚えながら成長している。(保)
- ⑤ 素直で意欲的、努力家で協調性もある真っ直ぐにしていってくれていると思っている。(保)
- ⑥ 保育士不足が続いているが新卒保育士を受け入れたいと思っている。若い子が活躍出来る職場になるよう、学生さんがどんな傾向にあるかも聞きたい。(保)
- ⑦ 職員の定着の難しさを感じている。若手の力が重要であることを伝えて欲しい。(保)

【考察と課題】

○学生指導の課題(教職員・学生に伝えること):

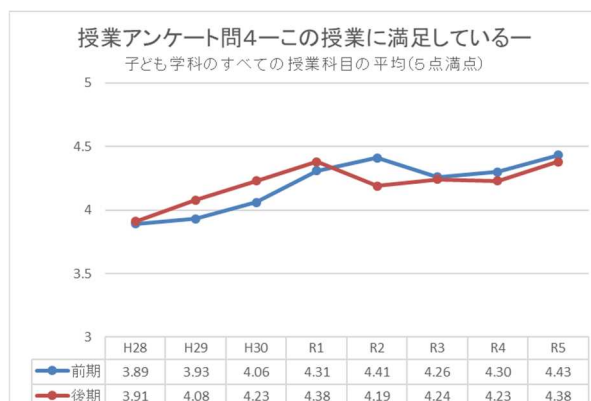
- ①体調不良等による早期離職を防ぐために、日々の生活リズムを整えることが大切であることから、学生時代より授業を休まず遅刻もしないよう指導することが課題である。
- ②現場では報連相が大事。コロナで十分な実習が出来なかったので、不安を感じての就職となるが、報連相や素直に学ぶ姿勢があれば周囲との意思疎通が計れ成長していけることを伝え、実践させる。
- ③ピアノの就職試験は減少しているが、保育者として必要であり、練習・上達は重要であることを指導する。
- ④現場で必要となる制作や手遊び、ピアノ(歌)などなるべく多くのレパートリーを修得し、卒業後も学んでいく必要があることを伝え、指導する。
- ⑤人との関わり方、挨拶、話し方、コミュニケーション能力(協調性)を高めるため、ワークを用いて学習し、素直に学ぶ姿勢を養う。

★厳しいコメントはごく一部の卒業生についてのもので、殆どの卒業生については問題がなかった。

★対面で人と接する機会が減った世代なので、職場の先輩や同僚、保護者との接し方について、これまで以上にワークで学ぶ必要がある。また、これまで通り、日頃より各場面で教職員が学生とコミュニケーションをとり、協調性・積極性・学び方をも養うよう促していく。

上の表およびグラフは、就職一年目の卒業生に対する就職先からの評価である。前年度を上回ったのは勤務態度のみだった。自由記述の部分では、おおむね肯定的な評価をいただいた。ほうれんそう等社会人として必要な部分をしっかりと指導していくことが必要である。

(2) 授業への評価

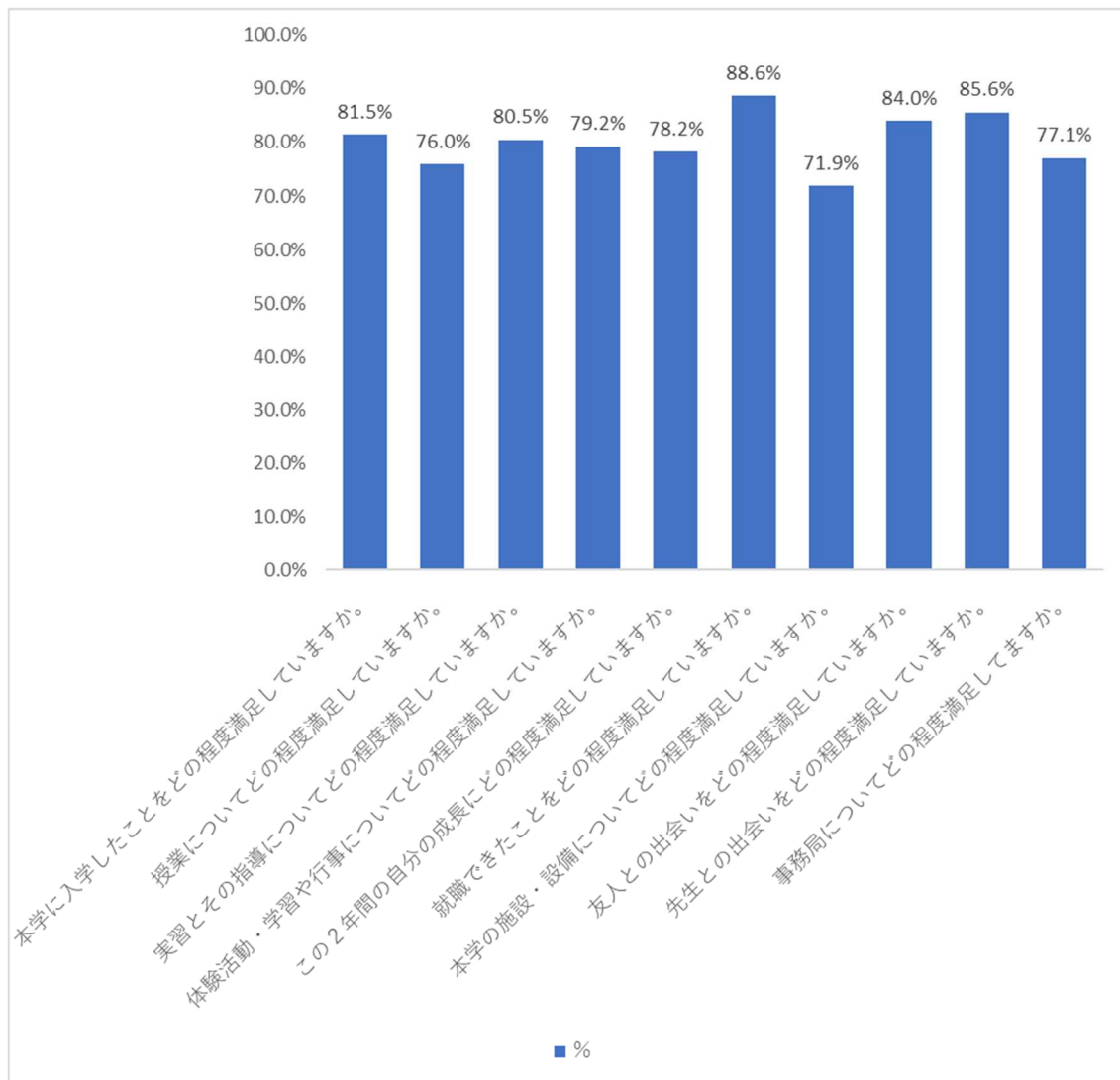


左のグラフは、子ども学科のすべての授業に対して、学生が5点満点で評価する満足度の調査結果の平均である。令和1～2年をピークにやや値が下降気味だったが、令和5年度は、それらをさらに上回る数値となった。

昨年度よりも値が回復しつつあるのは、コロナ禍でも実施できる行事のあり方を工夫できた点、それが定着しつつある

点が挙げられる。入学時からコロナ禍の只中にあった学年であるが、コロナ禍での行事、授業のあり方の工夫によって改善の余地があることが考えられる。

(3) 学生満足度調査



上のグラフは、短大全体について卒業生（令和6年3月卒業）に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「就職できたこと」「友人との出会い」「教員との出会い」に関して高い値となっている。

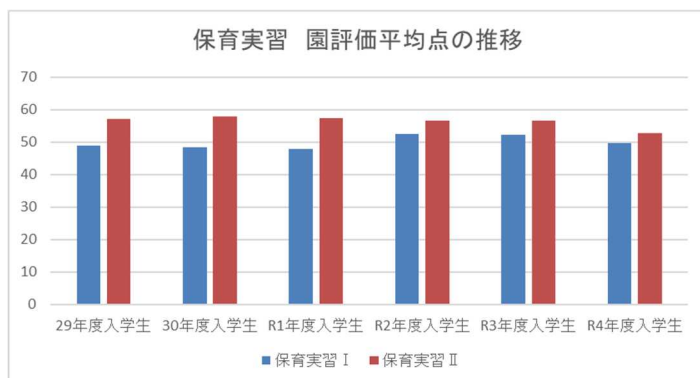
自由記述においても、教員との関係、友人との関係、豊かな自然などでの満足度が高く、本学の大きな強みとなっている。

改善したほうが良い点では、室内の温度調整、Wi-Fiの強化などが複数みられた。

問3	本学に入学してよかったと思うことを記述してください。
1	自然がとても豊かなので、様々な植物を実際に触れられ、より身につけることができた。先生と距離が近かったのでよかった。
2	先生と友達がよい人だらけ!! 辛いときに支えてくれる。
3	自然がたくさんあるのでフレッシュできる。友人が沢山できた。少人数であるため交友関係の広がりがあった。割と自由だった。
4	先生たちが明るく何でも話せる環境だった。いろんなことを体験しながら保育について学ぶことができた。
5	心から一緒にいて楽しいと思える友達に出会い、たくさんの思い出を作ることができた。中学の頃から行きたいと思っていた就職できたこと。
6	自然に囲まれたところのため、今まで触れてこなかったことに多く触れることができたので良かったです。先生方が優しく色々相談のつてくれたり、寄り添ってくれてる感じが、とても私にとっても、きっと他のみんなにとっても良かったと思うことの1つなのではないかと思っています。
7	先生や友人との関わりがとても楽しく、毎日学校に来るのが楽しかった。入学前よりの保育への知識・能力が向上したとも思う。
8	先生と話しやすく、困ったことも悩みも相談しやすかった。
9	実技が多くて良かった。
10	だいすきな友達に会えたこと!
11	仲の良い友達が沢山できたこと。みんなと楽しく授業できたり、実習も乗り越えられた。
12	いろんな人に出会えて友達できた。
13	体験学習が多くあったので、とても良かったです。実習指導の時間では多くのことを学べました。改めて様々なことを考える授業でした。
14	みんな仲よしで大好き。車OKでジャージで来れてありがたい。
15	20年生きてきて、1番と言えるほどの2年間だった! 出会いに感謝!
16	自然に触れられた。
17	先生と学生の仲がよい。
18	フレンドリーな先生、ピリッとした先生、厳しい事務局の職員さんがいる点。都会の専門学校では学べない、土に触れる授業が多くあったこと。敷地面積が広い。ピアノの時間が充実しててよかった。ピアノの自習練習がし易かった。
19	先生がとても親切で良かったです。
20	教員と友人との出会いがあったこと。多様な考え方や知識を得たこと。
21	沢山の自然の中で都会の学校では触れることのできない草花など沢山さんのものを知れたこと。先生とも仲良く色々な相談ができたり、くだらない話をしたり、授業以外にも充実した生活を送れました。
22	先生、友達との良い出会いがあった。一緒に学ぼうとすることができる関係でよかった。自然の中で学べて楽しかった。
23	先生が優しい、友達がおもしろい、就職ができる、実習ができる
24	先生と仲良い! 友人と仲良い! 自由たくさん楽しい! がくちょうは大親友☆
25	資格が取れた。
26	通学が楽だった。自然がいっぱい。
27	基本的には楽しく通わせていただきました。
28	森林の伐採や植物の観察など都会では学ぶことができない貴重な体験ができて良かった。先生方との距離が近く、悩みがあるとすぐに相談でき親身になって一緒に考えてくれて嬉しかったです。
29	最新の保育観や教育観が学べて良かった。自然を活かした経験ができたのも良かった。子どもとの関わりのある行事を体験できた。車通学ができて便利だった。実践的な学びもできた。学食が美味しかった。山緑祭やヨーフラ、ディズニー等のイベントを楽しめた。ナチュラルアート等。
30	先生に相談等しやすかった。自然を活かした学びをたくさんできたところがよかった。
31	大学に入ってからピアノを始めたのですが、授業や自主練習できる環境があったので、入学してよかったと思いました。
32	2年でめんきょが取れる。先生に相談しやすい。
33	自然を活かした授業を沢山行えたので良かった。友達がいっぱいできた☺♡♡先生大好き♡♡
34	しぜんがゆたか。むろいゆみにであえたこと。こうごぜみがたのしかった。くるまでこれたこと。
35	通学が楽。
36	穏やかな雰囲気よかったと思いました。先生方には相談や話かけたりすると親身になって聞いてくれたり、楽しく話をすることがたのしかったです。ありがとうございます。
37	自然が沢山あり友達とも沢山出会うことができ良かったと思う。
38	実習だけでなく、子どもと関わる機会が多かったこと。教員と学生が気軽に相談しやすい雰囲気であったこと。自由な雰囲気。
39	環境が豊かで四季を感じられるのは心の安定につながる。学生たちも優しくて、個性を大事にしてくれる先生方が多い。山短で良い学校だと思っていました。
40	親友たちに出会えた。実践・実習が多く力がついた。先生方に教えてもらえた。楽しく大学生生活をおくれた。希望の就職先に就職できた。
41	家から近い。
42	自然にふれる授業が多いのがよかった。
43	たくさんの友達に出会えました。同じ夢をおいかける者となると小中高にくらべて分かり合える分とてもしんらいできる友達ができました。卒業しても会いたい。
44	人が少ないのでみんな仲良くなれたところです。
45	山短の豊かな自然の中で授業や人とのかわりを通してコミュニケーション力や自然の素晴らしさを身につけることができました。
46	たのしかったこと。
47	保育者は日々どのような仕事をしているのか知ることができたこと。
48	楽しかったし、2年生になったらコロナが明けて行事もいろいろできてよかった。
49	普段ふれない自然にふれあえた。
50	分からないところをすぐきける。
51	友達に会えたこと。
52	先生と仲良く学生生活できたのでとてもたのしかったです。友だちとも仲よし。
53	自然の中でのびのびと学べ、気軽に声を掛けられる先生がいて、一生大切な友達に出会えてとても良いと思う。とてもアットホームで自分自身が成長できた。他の学校を見学させていただいたときに、都内などは狭くて息苦しかったり、先生とかの個性がわからなかった。でも、山短なら楽しく学生も先生も一体化していた。
54	自然が豊かで自然を使った授業がたくさんできたので良かったです。自由だった。やることをやっていたら結果につながることを改めて感じることもできた。
55	たくさんの友達に出会えました。同じ夢をおいかける者となると小中高にくらべて分かり合える分とてもしんらいできる友達ができました。卒業しても会いたい。たくさんの友達に恵まれ、たくさんの大好きな先生に恵まれ最高に楽しかったです。実習中も、先生が来てくれた時の安心感、嬉しさを味わうことができたこと、感謝です。♡♡愛羅武勇♡♡走死走愛♡
56	就職や実習などそうだんをめちゃくちゃ書いてもらってありがとうございます。
57	人との距離感の近さ。
58	子どもと触れ合う機会があってよかった。先生が実習のことについて親切に沢山のことを教えてくれたり、悩んでいると、相談のつてくれたりしてくれた。

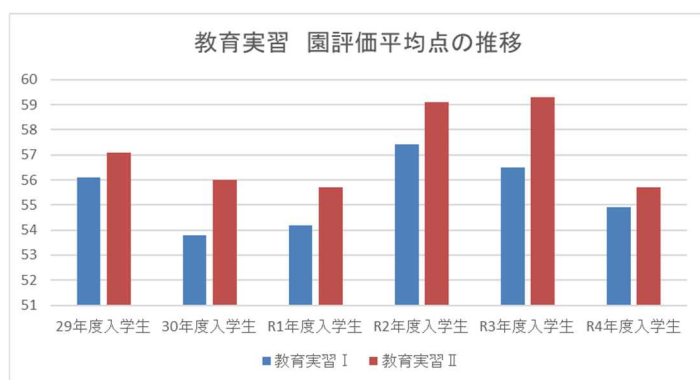
問4	改善するとよいと思うことを記述してください。
1	バスが上に来る本数が少ない。
2	冷暖房、エスカレーター、虫のわなをつくってほしい、ロッカー小さい
3	もっとWi-Fi設備をつけてほしい。
4	空コマや授業終了（時間割）は、もう少し平等になってほしい。Wi-Fiがもう少しあると便利いい。
5	山村短大前の道路に面した山が、雨で土砂崩れがあったり、雪で（樹木）が倒れたりしていたため、もう少し整備してほしい。車通学中危ないと思った。
6	日誌の指導を先生ごとではなくて全員の先生で同じくらいにする。
7	英語の先生の言っていることが難しかった。憲法も難易度が高すぎる。
8	さむすぎる。かいだん多い。
9	色々な報告が遅い。（満足度≦70％）
10	公共交通機関の遅延は遅刻や欠席に含まないでほしい。
11	少しさむい。
12	さむい！暖房がんばって！階段と坂がつよくて息切れしかない。
13	全教室でWi-Fiがつながるように。（これからの時代、必要最小限の設備投資です。）学長のワンマンが…。時代に合わせたほうがよいと思います。
14	夏は暑く、冬は寒いので教室内の温度管理をお願いします。
15	バリアフリー化をすすめる。ナプキンの無料配布。実習期間、教育実習は2W+2Wが良いと思う。
16	1Fの教室が寒い。虫が多い。
17	卒業式の日程（時間）を伝えるのが遅い。
18	コンビニほしい。れんらく希早めにしてほしい。かも。
19	一部の事務局の人の対応。室井先生の態度。品がなく、失礼。傷つく程に失礼だった。大人の人もクラス替えをするべき。（満足度≦20％）
20	特になし。ゆめをもちたい。からすがうるさい。リンゴの木がほしい。
21	あつい、さむい（満足度≦60％）
22	冷暖房の管理、虫がすごい落ちている。
23	1階の空調設備の整備、芙蓉館のカビ対策（ピアノを含め）、体育館の暑さ寒さ対策、声が聞こえづらい。
24	トイレがもう1か所くらいキレイになってくれるとうれしい。学食で定食みたいなセットがあったらうれしい。
25	階段がとても多く、ケガをしている人にあまり優しくないの、スロープ等もう少し増やすといいと思います。空コマが変な時間、所にあたりしたのもう少し平等にしたいだけとありがたいです。
26	事件が起きた時の対応。（満足度≦60％）
27	トイレ、キレイにしてください。
28	みんなうるさい。おじおおい。りんごのきがほしい。（満足度≦50％）
29	わからない。ゆきちがほしい。まんごーすき。ちーずづくりしたい。（満足度≦10％）
30	夏はあつくて冬は寒い所がちょっとしんどかったです。あとは最高ですー！
31	男もってほしい。
32	休講の連絡をメールではなくLINEで連絡する。学校専用のバス。休講のお知らせを事務局前に貼り出すだけでなく、スマホでも確認できるようにする。
33	奨学金を借りている学生を名指してみんなの前で呼ぶのはプライバシーがあるので、もう少し気を使ってほしい。
34	冷暖房の管理（夏暑い…冬寒い…）。通学バス（公共交通機関だと高いし、下で停まる本数が多い）（満足度≦60％）
35	授業がつまらなくて眠い。英会話の先生が何言っているのかわからない。
36	さむくてあつい（満足度≦30％）
37	ワイファイツケテホシカッタ。サムイ。（満足度≦20％）
38	ピアノが使える教室を増やす。洋式トイレを増やす。
39	LINEをもっと使ってほしい！山短メールはみる人あんまりいないよ～！！
40	虫が多いから少なくしてほしい。さむすぎるのでだんぼうをもっときかせてほしい。（満足度≦50％）
41	芙蓉館に電波が届くようになると良い。
42	遅延とか出席停止は休みにカウントしないでほしい。
43	Wi-Fiをもっとちゃんとしてほしい。さむくてあつい。（満足度≦40％）
44	ピアノを各教室に配置する。洋式のトイレを増やす。（満足度≦70％）
45	男子トイレもキレイにしてほしい。
46	Wi-Fiをつけて欲しい。（満足度≦70％）
47	おどし。セブンティーンアイス。
48	問題のある幼稚園は（実習先から）外してほしい。
49	移動に少し時間がかかる。
50	（遅延）などの休みは出席にしてほしいです！！ 夜露死苦！！
51	電波が悪い場所が多いからWi-Fiの数を増やしてほしい。（満足度≦60％）
52	（通学）バス、タダにしてほしい。
53	男子トイレもキレイな所がほしい。ケガ人などが使えるエレベーター、エスカレーターがあつてほしい。
54	空コマの調整をしたほうがいいと思う。（満足度≦40％）

(4) 実習での評価



左の表は、保育実習（1年生時に保育実習Ⅰ、2年生時に保育実習Ⅱを実施）に対する、園から学生への評価点の平均値を学年ごとに示したものである。評価項目の主な内容は、実習態度、保育者としての資質、指導力などである。2回目の実習のほうが確実に点数が上がっている。

るのがわかるが、令和4年度入学生の値は、例年に比べ若干下がっている。



左の表は、教育実習Ⅰ・Ⅱに対する園からの学生への評価点の平均値を学年ごとにまとめたものである。令和2年、令和3年は数値が高かったが、令和4年度入学生については、数値が下がっている。

(5) 財務状況

入学者数の減少により財務状況は極めて厳しい状況にある。令和5年度は、私立大学改革総合支援事業 type3 の補助金は獲得できなかった。人件費について、事務局員の人員の削減、再雇用により支出の抑制ができたが、入学者数の減少に伴い経常費補助金が減少し、経年の劣化による施設設備の修繕にかかる費用が増加したこと等により全体の収支はかなりの支出超過となった。

8. 財務状況

1年	41+(訓練生11)	49+(訓練生9)	60+(訓練生10)	60+(訓練生10)	60+(訓練生10)
2年	59+(訓練生7)	38+(訓練生10)	49+(訓練生9)	60+(訓練生10)	60+(訓練生10)
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
学生生徒等納付金収入	118,830,000	106,490,000	124,000,000	145,200,000	145,200,000
手数料収入	1,970,000	2,080,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
寄附金収入	890,000	400,000	600,000	600,000	600,000
補助金収入	28,930,000	31,800,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000
資金運用収入	11,900,000	0	0	0	0
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随・収益収入	22,320,000	30,080,000	28,710,000	28,710,000	28,710,000
雑収入(施設利用料)	7,210,000	5,380,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
繰入金収入	33,980,000	0	0	0	0
収入の部 合計	226,030,000	176,230,000	190,710,000	211,910,000	211,910,000

支出の部

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
人件費支出	144,110,000	144,560,000	145,000,000	145,000,000	145,000,000
教育研究経費支出	29,960,000	27,995,000	27,000,000	27,000,000	27,000,000
管理経費支出	35,060,000	24,330,000	26,000,000	26,000,000	26,000,000
(修繕)					
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	0	0	0	0	0
設備関係支出	4,550,000	5,650,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
資産運用支出	0	0	0	0	0
繰出金支出	13,430,000	14,000,000	14,000,000	14,000,000	14,000,000
引当金	0	0	0	0	0
支出の部 合計	227,110,000	216,535,000	214,000,000	214,000,000	214,000,000
収支差額	△ 1,080,000	△ 40,305,000	△ 23,290,000	△ 2,090,000	△ 2,090,000

(1) 財務の見通し等

- ・ 財務状況は、6月、7月、8月、12月に資金が一時的に不足する可能性が高い。
- ・ 令和6年度以降、入学者は70名を想定。(うち職業訓練生10名以上)を想定。
- ・ 令和5年度以降は、補助金は約3,000万円を想定。うち500万円は、私立大学等改革総合支援事業 type 3 の補助金を想定している。
- ・ 人件費は、教員数11名、現状維持で想定。11名は、文科省が定める最少人数。
- ・ 職業訓練生10名以上の入学者を想定。
- ・ 本来、高校新卒+職業訓練生の合計が75~80名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却特定引当金や将来に向けての資金の積み立てはできない。

(2) 人件費

人件費は、専任教員 11 名を想定している。これは文科省が定めるこの規模の保育学科の最少人数である。事務局員は R 2 年度から 1 名マイナスとし、5 名とした。また、一時金は 2.8 か月とした。令和 6 年度は、再雇用制度、基幹教員制度を引き続き活用する。さらに、手当などの調整を行い人件費について可能な限り圧縮をはかる。

(3) 施設・設備更新

一部の冷暖房機器の更新、タイル壁の補修を行った。しかし、施設設備の老朽化は進んでおり、突発的な修繕が必要になる可能性がある。

(4) 次年度繰越金

現状の入学者数では減少が続く。高校卒+職業訓練生の合計が 75～80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却引当特定預金や将来に向けた資金の積み立てはできない。

(5) 積立金

積立金については、令和 5 年度については行わない。

(6) その他の経費節減

人件費以外では、光熱水費の節約等、日用品の節約等に努める。

(7) 研修センターの売却

令和 6 年 1 月 15 日、約 1200 万円で土地建物の売却を行った。

9. 行政の施策

(1) 埼玉県子育て応援行動計画

埼玉県全体では、新たな子育て応援行動計画（令和 2 年度から令和 6 年度）を策定し、保育の受け入れ枠の確保、認定こども園の整備、小規模保育事業等の連携施設の確保、延長保育の実施、保育人材の確保、保育環境の向上をうたい、保育施策の充実を計画している。

(2) 高等教育無償化

令和 2 年度から、高等教育の無償化が導入された。住民税非課税世帯を中心に年収 270 万円以下から 380 万円以下までの世帯が対象となる。本学は、令和元年度から高等教育無償化の対象となる短大として認可されている。

(3) 幼児教育無償化

令和元年 10 月から幼児教育・保育の無償化がスタートした。子どもを預ける世帯が増え、現場での保育士、幼稚園教諭への採用ニーズは高くなると予想される。

10. 令和5年度（2023年度）事業報告一覧表

	令和5年度（2023年度）	
学生募集 ・目標値	・入学者の数100名を基準。 ・資料請求数800（入学者を資料請求数の10%とした場合）。3年生以上の実質参加者数117名。 ・志願者数80名が目標。	610 58
学生募集確保	・入試方法の見直し。プレゼンテーションをなくす。 ・児童養護施設出身者、検定料免除 ・外国にルーツを持つ学生の受験機会を明示する。 ・遠隔地からの受験者の検定料3万円を免除し、下宿をする学生へは月1万5千円の賃貸補助を行う。 ・コンサルタントの活用。 ・SNSの活用。新たにTikTokを含めたSNS広報の活用。 ・職業訓練生の募集 ・ホームページ、ランディングページの活用。 ・新たなプロモーション動画の作成。 ・公民館等に履修プログラムの案内を配布する。 ・コンビニにおいても広報できないか検討する。 ・近隣の高等学校や地域の市町村との教育包括協定に基づき、地域貢献するとともに高校生、中学生、小学生が本学に訪問する機会を増やす。 ・その他高校側のニーズを開拓（定時制高校、通信制高校などへのアプローチを強化） ・保育者に対して、待遇面についてのデータを作成したり、各自治体等が取り組んでいる補助金制度などをまとめたりし、本学から積極的に情報発信する。 ・高等学校への出前授業の強化。特に家庭科の授業の中で出前授業を展開し、本学の認知度を高める。家庭科では保育に関する授業内容で短大、大学での学びについて紹介したいというニーズがあり、それに応えることで地域への貢献も図る。 ・中学校、高校のPTAへのアプローチ。在校生に行ったアンケートによると、親からの勧めで入学している者が一定割合いることから、地元での認知度を高めるため、中学校約40校、高校約20校の目標値を掲げ、PTA役員へのアプローチを展開する。 ・学生によるSNSサイトの運営、PR。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○ × △ △ ○ △ ○ ○
経常費補助金・私立大学等改革総合支援事業	・経常費補助金の確実な獲得。 ・タイプ3で600万円の獲得を目指す。	△ ×
教育内容の見直し。 コンセプトの点検	・学科定員の点検。 ・新たな資格免許の導入の検討。小学校教諭免許、特別支援学校教諭免許 ・SDGs、自然環境保護、福祉。気になる子への対応の研究。公的機関との連携。 ・フィンランドの保育の研究。	× ○ ○ ○
卒業までに身につけるべき学習成果について	・設定された学習成果をもとに、そのチェックの仕方を確立。ディプロマサプリメント。 ・カリキュラムツリー、ポートフォリオの運用定着。	△ △
授業の質の向上	・前期、後期ともに問四4.0以上を目標とする。	◎
少人数教育の深化	・学生の顔と名前を覚える。 ・個別指導のしくみを新設。 ・満足度調査において、友人との出会い、先生との出会いが90%以上になることを目標とする。	○ ○ 84.0% 85.6%
実習	・保育実習Ⅰは50点以上、保育実習Ⅱは55点を基準。 ・教育実習Ⅰは55.0、教育実習Ⅱは58.0を基準。	○ △
SDGsに向けた保育の実践	・Natural 保育検定基礎編合格者数について、平成30年入学生の合格60名。平成31年入学者45名を目標。 ・Natural 保育検定応用編合格者数について、平成31年入学生の合格者30名。平成31年入学者15名を目標。 ・その他、SDGsに関わる取り組みの洗い出し。	○ ○ ○
生活指導	・退学者防止。退学者0を目標。	×
進路指導	・就職希望者数を母数とした就職率 100%以上を目標 ・公務員試験合格人数3名以上 7名合格（既卒者2名） ・就職先からのアンケートで「たいへんよい」の割合が、出勤状況80%、勤務態度70%、幼児への関わり方50%、環境構成力40%、保護者への関わり方35%、他の職員との協調性60%を目標	○ ◎ △
施設・設備	・必要な修繕を行う。県道沿いがけ崩れへの対応など。	○
学生満足度調査	・入学への満足度80%、就職への満足度85%、授業への満足度75%、実習への満足度75%、体験学習への満足度80%、施設設備への満足度70%、先生との出会いへの満足度85%、友人との出会い90%、自分の成長80%を目標	○△
人件費	・教員数については最少人数で臨む。事務局員数は現状維持。 ・-700万円の抑制。+賞与等の調整	○ ○
資産売却	・研修センターを売却した。	○